



2021年5月25日

各位

会社名 那須電機鉄工株式会社
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 智晴
 (コード 5922、東証第二部)
 問合せ先 専務取締役 西岡 雅之
 (Tel. 03-3351-6131)

中期経営計画の進捗状況について

当社グループは、2019年5月28日に、2019年度から2021年度までの中期経営計画を開示いたしました。つきましては、計画2年目となります2020年度の進捗状況を下記の通りご報告いたします。

また、2021年度は中期経営計画の3年目にあたりますが、新型コロナウイルス感染症による影響で国内外の経済活動の抑制が続く状況ではありますが、当社グループは引き続き当初より計画している経営戦略を推進して参ります。

記

1. 2020年度の実績について

(1) 中期経営計画目標の進捗

2020年度指標別実績対比

単位：百万円

	売上高(連結)	営業利益	営業利益率	当期純利益	ROE
当初計画	21,900	1,080	5.0%	750	4.0%
実績	21,588	1,779	8.2%	1,069	5.3%
差異	△312	699	3.2%	319	1.3%

売上高については、電力・通信関連で特に下期に電力向け製品が停滞して計画に対して未達に終わりました。利益面では、通信関連製品が堅調に推移したことにより全体を牽引致しました。また建築・道路関連では高速道路のETC設備更新工事のガントリーなど道路施設材が利益に貢献致しましたが、建築鉄骨関係の大型件名での手直し工事の発生により大幅な損失を計上しました。

その結果、2021年3月期の連結業績につきましては、売上高215億88百万円、営業利益17億79百万円となりました。

<ご参考>

単位：百万円

	2019年度 3月期	2020年度 3月期			2021年度 3月期	
	実績	当初計画	実績	差異	当初計画	当期予想
売上高(連結)	21,680	21,900	21,588	△312	21,600	22,100
営業利益	2,012	1,080	1,779	699	1,080	1,250
営業利益率	9.3%	5.0%	8.2%	3.2%	5.0%	5.7%
親会社に帰属する当期純利益	5,288	750	1,069	319	700	820
ROE	27.4%	4.0%	5.3%	1.3%	4.0%	3.9%

(2)投資の状況

当社グループの設備投資額は 22 億 71 百万円となりました。主に工場隣接の賃貸工場借用による工程レイアウトの改善等を実施して生産効率化を推進致しました。

また、完全子会社化を進めておりました会津碍子株式会社につきまして、2021 年 3 月に東北電力株式会社などが保有する残りの 3 分の 1 の株式 (25,840 株) を取得し、完全子会社としました。

2. 今後の基本戦略について

(1)既存市場における付加価値化・差別化

商品力・提案力アップを注力製品に加えて、改良・コスト低減により競争力を高めて参ります。また、表面処理技術 (高耐食めっき・タフ Z10、低光沢処理) による販路拡大に努めて参ります。

(2)品質・コスト競争力の強化

引き続き生産体制の最適化を経営重点方針に掲げ、重点設備投資による収益源の創造とスマートファクトリーの構築による生産効率化に取り組んで参ります。

その一環として中期設備計画において、八千代工場はめっき工場棟の新築、会津地区では碍子製造設備の移設・更新を計画的に実施中です。主要部分の完成は 2022 年度を予定しています。

(3)既存製品・技術を活用した新市場進出

リニア新幹線に係わる資機材、大阪万博関連施設材、そして海外鉄道プロジェクトの受注を促進して参ります。

(4)新規事業開発

水素関連事業につきまして、環境省事業成果のもとに、2020 年度に「空温式水素吸蔵合金システム」(MH-クーオン) の商品化を行い、2021 年度より販売開始いたします。

当社は、2050 年カーボンニュートラル宣言 (CO₂ 排出実質ゼロ) の実現に向け、水素による CO₂ フリー燃料への転換で社会貢献を目指して参ります。

(5) IT 戦略

工場内の人や設備の情報を IoT を用いて収集・分析、AI やロボットを活用した次世代のモノづくりを推進することで生産性の向上や新たな収益源を創出するデジタルトランスフォーメーション (DX) を目指します。また、グループ内のバックオフィスに於いても DX 推進してグループ経営の効率化にも努めて参ります。

以上